

2016年7月8日

各位

積水ハウス株式会社

「第10回キッズデザイン賞」3部門で10点の受賞 賞の創設以来、積水ハウスは10年連続で受賞達成

積水ハウス株式会社(本社:大阪市北区、社長:阿部 俊則)は、7月8日(金)に発表されたキッズデザイン協議会(内閣府認証 NPO、本部:東京都港区)主催の「第10回キッズデザイン賞」において、安全配慮引き手、住宅建築現場への女性用仮設トイレの開発と普及など、3部門で計10点のキッズデザイン賞を受賞しました。当賞の創設以来、10年連続の受賞となります。

キッズデザイン賞は「子どもが安全に暮らす」「子どもが感性や創造性豊かに育つ」「子どもを産み育てやすい社会をつくる」ための製品・空間・サービスで優れたものを選び、広く社会へ伝えることを目的としています。子どもが使う製品はもちろん、大人・一般向けに開発されたものでも、子どもや子育てへの配慮があれば応募可能です。受賞作品には「キッズデザインマーク」の使用が認められます。

なお、8月29日(月)には全受賞作品297点の中から最優秀作品として「内閣総理大臣賞」1点の他、優秀賞作品として「経済産業大臣賞」4点、「消費者担当大臣賞」1点、「少子化対策担当大臣賞」2点、「男女共同参画担当大臣賞」1点、本年より新設された「東京都知事賞」1点などが発表される予定です。



受賞項目は下記の通りです。各項目の詳細については次頁以降を参照ください。

<子どもたちの安全・安心に貢献するデザイン部門>

- ☆ 安全配慮引き手
- ☆ ビルトイン空気清浄機「AirMe(エアミー)」(※1)
- ☆ 玄関ドア指はさみ防止仕様 (※2)
- ☆ 保育施設のためのひかりによる生体リズムを育むプロジェクト (※3)

<子どもたちの創造性と未来を拓くデザイン部門>

- ☆ 住ムフムラボ

<子どもたちを産み育てやすいデザイン部門>

- ☆ 住宅建築現場への女性用仮設トイレの開発と普及 (※4)
- ☆ 江東亀戸サテライトグローバルキッズ縦川園 (※5)
- ☆ イマドキママ スタイル
- ☆ 「1階生活」
- ☆ 食が真ん中の住まいづくり「おいしい365日」

- (※1) パナソニック株式会社と共同応募
- (※2) 三和シャッター工業株式会社と共同応募
- (※3) 大光電機株式会社と共同応募
- (※4) 日野興業株式会社と共同応募
- (※5) 株式会社グローバルキッズと共同応募

本件に関するお問合せ

積水ハウス株式会社 広報部

(大阪) TEL06-6440-3021 (東京) TEL03-5575-1740

SLOW & SMART

ゆっくり生きてゆく、住まいの先進技術。



■各受賞内容について

☆ 安全配慮引手

引き戸での、指はさみを予防できるように配慮した引き手です。子どもにもわかりやすいシンプルな機構で、手をかけやすく、引き込まれにくい形状としました。扉の操作に慣れていない小さな子どもでも、特別な操作を要せず、自然に指はさみを防ぐことができます。

引き戸をしまう時はより安全に、引き出すときはより簡単に。安全性・操作性の向上を図りつつ、それらの機能をひとつの部品にまとめることで、コストダウンも実現しました。

子どもたちの安全・安心に貢献するデザイン部門



引き戸を引き出す

引き戸をしまう

☆ ビルトイン空気清浄機「AirMe(エアミー)」

(パナソニック株式会社と共同応募)

「エアミー」は天井に取り付ける、シンプルデザインの空気清浄機です。さりげなく部屋になじむすっきりしたデザインで、空気も空間もすっきりし、子ども達のがのびのび深呼吸できる住まいを実現しました。

一般的な床置き型の空気清浄機と異なり、子ども達が倒したり、電源コードで転倒するなどの心配もなく、日頃のお掃除の邪魔にもなりません。

性能面では、花粉やPM2.5等の粉塵除去や脱臭性能の他に、独自のホルムアルデヒド除去性能を搭載しておりより安全・安心な空気を届けます。また、空気は目に見えないものであり、こういった状況か把握することは難しいですが、「エアミー」はHEMSに接続することで、「ハウスダスト」「PM2.5」「ニオイ」といった空気環境の見える化も実現します。

※「エアミー」はグッドデザイン賞(2015年度)も受賞しています。

子どもたちの安全・安心に貢献するデザイン部門



ビルトイン空気清浄機「エアミー」

HEMSモニター

☆ 玄関ドア指はさみ防止仕様

(三和シャッター工業株式会社と共同応募)

ドアを開け閉めする際に、そばで子供が不用意にすきまに指はさみこまないよう配慮した玄関ドアです。

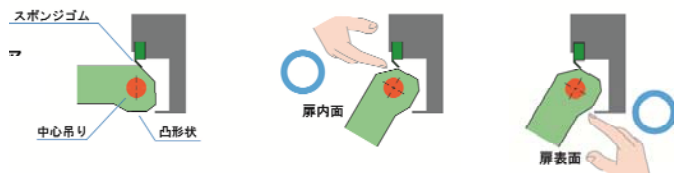
扉吊り元の外側を凸形状にすることで、すきまを常に小さく保ち指が入りにくくしています。扉内側は指を入れてもはさまれない程度の大きなすきまとし、見た目にもスポンジゴムで覆うことで配慮しています。

玄関ドアに要求される性能を確保し、意匠を損なわず、扉内外両方に指はさみ防止の安全配慮機能を持たせた製品です。

子どもたちの安全・安心に貢献するデザイン部門



玄関ドア指はさみ防止仕様



☆ 保育施設のためのひかりによる生体リズムを育むプロジェクト

(大光電機株式会社と共同応募)

時間帯に合わせて調光・調色できる照明設備を配すと共に、保育士の方に正しく運用頂くための照明設計指針・マニュアル、ビジュアル的に操作しやすいスイッチを開発しました。

生体リズムは、光との関係で成立している部分が多くあり、特に子どもたちが1日の大半を過ごす保育施設では配慮が必要です。

光の生体リズムによる影響を、大人にも知ってもらうことで、幼児の適切な生体リズムを育む光環境の浸透を図ります。

子どもたちの安全・安心に貢献するデザイン部門



時間帯に合わせて明るさと光色を調節

☆ 住ムフムラボ

積水ハウス総合住宅研究所が運営する「住ムフムラボ」(大阪市北区)は、「生きるコトを、住むコトに。」をテーマに、人生を豊かにする住むコトの価値を生活者とともに考え、感性を磨き自分らしさを発見できる体験型の情報発信拠点です。

研究成果を体感できる実物大の住空間も3つのゾーンごとに設置、子育てがテーマの空間は、時間と環境で変化していく家族のカタチと描く未来について考えるきっかけの場となっています。

また、子ども自身の創造力や感性を発揮・育む親子対象のワークショップも多彩に展開。体験を通じて親子と一緒に、そして子ども自らが考え学び、わが家を考えることを促し、自主的な発見から家族の物語としてふさわしい住まいを共創しています。

子ども自らが「住ムフムラボへ行きたい」と望み来館されるご家族連れも多く、準備されたプログラムや単なる知識習得ではないことも、親子が共に楽しみ学ぶ場として受け入れられています。

子どもたちの創造性と未来を拓くデザイン部門



「住ムフムラボ」外観

☆ 住宅建築現場への女性用仮設トイレの開発と普及

住まいづくりへの思いが凝縮された建築現場を、子どもたちに身近に感じてもらいたい。しかし、これまでの現場は男性が大半で、子どもや女性が安心して訪れる環境とはいえないのが現実でした。

積水ハウスでは、建築現場で働く女性が快適に使用できる”仮設トイレ”の開発と普及を進めることで、子どもや女性にとっても心地よい現場環境づくりを目指しています。

第8回キッズデザイン賞(復興支援デザイン部門)と日本トイレ大賞大臣賞を受賞した「おりひめトイレ」をベースに、仮設トイレのレンタル運用に豊富な実績を持つ日野興業株式会社によるアレンジを加えた小型汎用モデル「フラワートイレ ブルーム」や「ウェレット」を開発し、一般建築現場への展開を始めました。さらに自社で「おりひめトイレ」16台を保有し、啓発推進モデルとして全国の分譲地などで活用。小規模な現場には、「フラワートイレ」などを展開し、現場環境を加速的に改善しています。

また、建築現場への展開に際し、女性の現場監督や技能職が必要とする“着替え用フィッティングボード”や“身だしなみを整える洗面や鏡”などの設備を追加しました。このような工夫が、分譲地に来られたお客様や子どもにも身近に感じてご利用いただいています。

「おりひめトイレ」の外観デザインには、女性の住宅建築現場への進出を応援する想いを、いきいきと働き輝く女性の姿を描くことで表現しています。

子どもたちを産み育てやすいデザイン部門



住宅分譲地に設置した「おりひめトイレ」



建築現場に設置した「フラワートイレ ブルーム」



女性の声を取り入れた設備

☆ 江東亀戸サテライトグローバルキッズ堅川園

(株式会社グローバルキッズと共同応募)

マンションと低層住宅が密集し、子育て世帯と高齢世帯が混在した地域のサテライト型保育園です。

周辺に住まわれる高齢者の方への配慮として、アプローチで近隣との交流が図れるようなグリーンウォールや座り石を設置し心理的・身体的バリアを取り除き、騒音対策として、中庭園庭を囲う配棟計画、防音柵の設置を行いました。

また、木材流通の拠点となる木場を有する江東区を故郷として育つ子供たちに、木に囲まれた豊かな園舎で育ててほしいと考え、内装には国産杉材を多く使用。「保育園は第二の住まい」との考えのもと、住宅設計で培った「子どもの生きる力を育む」ためのノウハウを結集させています。

子どもたちを産み育てやすいデザイン部門



外観



近隣との交流を図る座り石

☆ イマドキママ スタイル

育児や家事はもちろん、美容にも積極的なイマドキママたちの“欲しい！”をかなえた賃貸住宅です。育児を楽にする仕掛けだけでなく、家族団らんや自分磨き等、現代ママのライフスタイルに配慮し、育児ストレスの軽減を「暮らしを楽しむ」という視点から提案しています。

「育児も家事も、そして美容も。もうあきらめない！」そんな暮らしを実現する空間提案により、子育てママが抱えるストレスなどの、様々な社会問題解決に寄与できることを目指します。キッチン対面の「ママカフェ」やショップのような「おみせクローゼット」、お昼寝に最適な「ごろごろタミ」や行き止まりのない「ぐるぐるマドリ」など子育てママをサポートする空間とおしゃれなインテリア提案です。

子どもたちを産み育てやすいデザイン部門



回遊動線上的おみせクローゼット



ごろごろタミやママカフェ

☆ 「1階生活」

子育て世帯の6割※は戸建てを希望していますが、実際は賃貸住宅に住む割合が高くなっています。

そこで、賃貸住宅1階の「階下への騒音を気にしなくていい」「庭に出やすい」というメリットを生かし、外遊びが安全に楽しめるサービスバルコニーや、子どもの秘密基地にもなるロフト空間、育児がスムーズに行える動線等を取り入れ、賃貸住宅でも子どもをのびのび育てられ、戸建て感覚を楽しめる住まいを実現しました。

また、住戸の一部に地域交流拠点として活用できる土間空間を設けることで地域に貢献する賃貸住宅となっています。

地域での子育て共助を実現するため、子育て世帯と高齢者世帯向けのプランを用意し、同じ住棟に多世代が住まう工夫も行っています。

※ 国土交通省「平成20年住生活総合調査」より

☆ 食が真ん中の住まいづくり「おいしい365日」

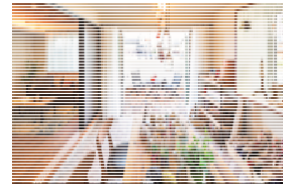
「おいしい365日」は、一緒に料理を作って、食を楽しむ子育てファミリーのための新しい食空間提案です。

調理動線実験や家事収納研究に基づいた、新キッチンレイアウト「セバレートキッチン」で、子どもたちの調理参加と、見守りを配慮した設計事例を、展示場に展開しています。おうちゴハンの大切さを伝え、子どもたちの自立と健やかな成長を住まいが支えます。

キッズデザインのポイントは、① 一緒に嬉しい！親子で調理しやすいキッチンレイアウト、② 踏台いらずで安全！子どもの居どころ空間をキッチンに接続、③ ボクにもできる！子どもでも分かりやすい裏方収納空間の3つです。

食べる楽しさを知ることが食育の第一歩。これらのポイントに加えて、居心地のよい窓辺ダイニングなど、住まいづくりを食空間のあり方から考えることで、毎日のおいしい幸せを子どもたちに伝えることができます。

子どもたちを産み育てやすいデザイン部門



道路から直接アクセスでき、地域交流の場として活用できる空間

大阪府堺市の建築事例

子どもたちを産み育てやすいデザイン部門



キッチン接続の小上がり空間
「子どもキッチンステージ」

子どもにもわかりやすい
「キッチンクローク」



「セバレートキッチン」調理動線実験